

# 学びびや

ヨイムスワップ

1872(明治5)年5月1日、福沢諭吉は京都を訪れました。名所が京都で実践されていた旧跡を見て回る時間などはなく、西本願寺、建仁寺、知恩院の3会場でにぎわっていた京都博覧会を見物するつもりもありませんでした。福沢の一番の目的は、3年前に全国で初めてできた学区制小学校をはじめとする京都の学校を視察することだったので

京都市中では番組という区分けがされ、基本的に

また、教育の重要性を感じ、日本画の将来を学校

にそれぞれの地域に一つ、計64の小学校が建てられていましたが、そこでは「区内の貧富貴賤を問はず」誰もが通って教

えを受けられるようになっていたことに福沢は感動しています。福沢の理想とする近代教育の一步が京都で実践されていた

福沢は学校に通う子のに託そうとしました。明治の京都画壇をリードした望月玉泉は、日本初の盲聾教育のための学校で、この子どもたちであるける小学校設立に尽力ある京都盲聾院で子どもと確信。学校教育の重要し、その教育への思いはに絵を教え、また府の女

## 画家、学校設立にも尽力

性を再認識した出来事で、後には、日本初の画学校で、学校でも画学教授を務める京都府画学校の設立

また、教育の重要性を感じ、日本画の将来を学校

また、教育の重要性を感じ、日本画の将来を学校

後に、日本初の画学校で、学校でも画学教授を務める京都府画学校の設立

また、教育の重要性を感じ、日本画の将来を学校



写真2、望月玉泉「池畔驟雨図」(1888~91年、長岡天満宮蔵)



今回紹介した幸野楳嶺の作品「女官図」(写真1)と望月玉泉の作品「池畔驟雨図」(写真2)は、学校歴史博物館(下京区)の企画展「日本画開拓の時代―明治を生きた京の画家―」で展示しています(6月30日まで、「女官図」は5月28日か

学芸員 森光彦

◇